

6位以内を目指す

津山商高(津山市山北)陸上部が11月4日の県高校駅伝(井原市)に挑む。男女ともに照準は中国大会切符が与えられる6位以内。本番が迫る中、2年ぶりの中国アベック出場へ向け、選手の士気も高まってきた。(松山慎二)

来月、県高校駅伝挑む津山商高陸上部

男女中国大会へ闘志

県大会は井原運動公園陸上競技場を発着点に女子5区間21・0975*、男子7区間42・195*のコースを舞台に女子19、男子35チームが争う。

前回は3位の津山商女子は3年連続入賞中。1年時からメンバー入りしている松岡遥主将(3年)がチームをけん引し、各校のエースが集う1区(6*+)にエントリ。松岡主将と2区(4・0975*+)の黒田紋加選手(2年)はいずれも粘り強い走りが身上で、アンカーには成長著しい湊絵利子選手(1年)を擁す。二気持ちの強い選手ばかり。全員が最



県大会を前に練習に励む選手たち

は6位入賞した2009年とそん色ない。地方のある1区(10*+)・辻涼太選手(3年)で流れをつかみ、4区(8・0875*+)の村田敦洋選手(3年)らを軸に後半勝負に持ち込みたい。主将でアンカーの吉本圭吾選手(3年)は「悔しい思いをした昨年(14位)の借りを返す」と気合十分だ。

9月中旬から井原市のコースを数回試走し、現在は最終調整に励む。近年頭角を現してきた女子に加え、男子も過去に優勝経験があり、後輩の活躍を楽しみにしているOBも多い。「全員駅伝で力を最大限発揮できれば(上位進出の)チャンスは十分ある」。清水公康監督は教え子の一丸の走りに期待を掛ける。

県大会には美作地域では津山商のほか、勝山や津山高専など男女計5チームが出場。中国高校大会は11月17日、島根県で開かれる。